





伏見人形の製作工程（『広益国産考』）

- 1：材料となる陶土を掘く
- 2：原型から土型を作る
- 3：土型に陶土を入れ成形する
- 4：窯で焼成する
- 5：地塗りののち彩色する



本町二十丁目の調査（上：人形の土型 下：人形を焼成した窯）

### 伏見人形の製作工程

**土づくり** 採取した陶土を水に浸してから、足で踏んだり臼で搗いたりして練り上げます。かつては東山山麓から良質の陶土が産出していました。

**原型の作成** 人形の原型は、きめの細かい陶土を用いて細部まで丁寧に造形します。また、型合わせができるように工夫され、土型の合わせ目の線が刻まれています。

**土型の作成** 原型に陶土を押し当てて土型を作成し、焼成します。土型は合わせ目の線にそって前後や左右で一組になるように分割された形になります。土型は一つの原型から複数組が作られます。

### 成形

土型に陶土を押し当て、しばらく乾燥させてから、弾みをつけて軽く叩いて土型から取り外します。一組になる片方ずつの型から、それぞれ取り外したものを合わせて継ぎ目を調整します。最後に空気抜き孔をあけます。

**乾燥・焼成** 十分に乾燥させたのち、窯で焼成します。薪を用いて均質に焼成するには、技術と経験が必要でした。

**地塗り** 焼き上がった人形の表面に膠で溶いた胡粉（貝殻をすりつぶした白い粉）を塗りつけます。

**彩色** 膠で溶いた顔料で着色し、表情や柄を描いて絵付けすると完成です。（山本雅和）